

# I C T活用事例集

あぶくま支援学校

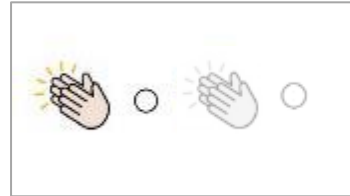
# ICT 事例集


## A 1


教員による教材の提示


学年：小学部1学年		教科名等：日生(朝の会 国語、音楽)	
授業の目標	読み聞かせを通して、絵本の内容や言葉に親しむことができる。		
ICT 活用のねらいと効果	<p>○TV モニター、タブレットを活用し、絵本に注目しやすくしたり、絵本の内容をより分かりやすく伝えたりし、児童が関心をもてるようにする。</p> <p>・あらかじめページごと、注目してほしい箇所を、写真で撮り、保存しておいたものを使用。児童を観察しながら、注目が高まるようにタイミングを見計らって、画像の切り替えを行った。その結果、絵本で読み聞かせを行うより、より注目効果が高まり、朝の会以外の時間に、絵本を自分から開き、楽しむ姿が見られた。</p>		
活用ツール	・TV モニター ・タブレット		



学年：小学部2年2・3組		教科名等：生活単元学習「おんがくあそびをしよう」	
授業の目標	<p>○音や音楽に気付いて聴いたり、自分なりに表そうとしたりする。</p> <p>○教師や友達と一緒に音楽活動をする楽しさを感じる。</p>		
ICT 活用のねらいと効果	<p>○TVモニターを使用しての学習内容の提示</p> <p>ねらい：児童が教師の話に注目しやすくする。</p> <p>効果：印刷物や黒板等での提示より、注目し見通しをもって安定した気持ちで学習に取り組むことができた。</p> <p>○タブレット(imovie・keynote)を使用しての歌詞や簡単なリズム譜の提示</p> <p>ねらい：カラオケのように歌詞を表示したり、アニメーションでリズム譜を提示したりすることで、歌っている箇所や鳴らすタイミングを視覚的に分かりやすくする。</p> <p>効果：歌っている箇所が分かり、音楽に合わせて1人で歌うことができた。また、教師が示範するよりも、アニメーションで提示した方が、楽器を鳴らすタイミングが分かりやすく、少ない支援で鳴らすことができた児童もいた。</p>		
活用ツール	・タブレット(keynote、imovie) ・TV モニター ・ライトニングケーブル ・HDMI		



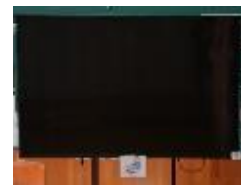
<b>学年： 中学部2年合同</b>		<b>教科名等：美術「自然を生かして作ろう 鑑賞」</b>	
<b>授業の目標</b>	<p>○作品の鑑賞を通して、表現の良さやアイデアの面白さを感じ取り、自分の見方や感じ方を広げる。</p> <p>○意欲的に授業に参加して、友達の作品の鑑賞で良さを見つけたり、自分の完成作品を気に入ったりする。</p>		
<b>ICT 活用のねらいと効果</b>	<p>美術「自然を生かして作ろう 鑑賞」</p> <p>○タブレットで撮影した生徒の作品をTVモニターに映すことで、美術作品を生徒全員で鑑賞・共有することができる。</p> <p>・タブレットで立体作品の細部を拡大することで、生徒の創意工夫を具体的に発表・鑑賞することができた。</p>		
			
<b>活用ツール</b>	<b>・タブレット ・書画カメラ ・TV モニター</b>		

<b>学年： 中学部2年合同</b>		<b>教科名等：生活単元学習「2年生がんばろう会」</b>	
<b>授業の目標</b>	<p>○自己紹介や2年生の抱負等の発表を通して、友達や教師との交流を深める。</p>		
<b>ICT 活用のねらいと効果</b>	<p>○書画カメラを使用して、生徒直筆の原稿をモニターに映すことで、生徒全員に見やすく提示することができる。</p> <p>・発表する生徒は、モニターを指さしたり、身振りをしたりしながら、発表することができたので、発表の仕方に幅ができた。</p> <p>・発表を聞く生徒は、モニターに拡大された原稿を見るので、注目して話を聞くことができた。</p>		
			
<b>活用ツール</b>	<b>・タブレット ・書画カメラ ・TV モニター</b>		

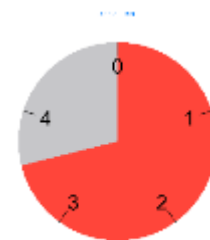
<b>学年： 中学部3年1組</b> <b>教科名等：数学「重さを測定しよう」</b>	
<b>授業の目標</b>	身の周りにある物の重さを、計量計を使って量ることができる。重さの単位、g(グラム)とkg(キログラム)を使い、計量計の目盛りを正しく読み取ることができる。
<b>ICT 活用のねらいと効果</b>	<p>○計量計の目盛りをタブレットを通じてTVモニターに映すことで、正しく目盛りを読むことができる。</p> <p>・生徒が計量計の小さな目盛りを読む際に、TVモニターに映った大きな目盛りを読むことで目盛りを数えやすくなり、正しく重さを量ることができた。</p>
	
<b>活用ツール</b>	・タブレット ・TVモニター ・ライトニングケーブル+HDMI

<b>学年：中学部3年重複</b> <b>教科名等：国語「詩を読もう・書こう」</b>	
<b>授業の目標</b>	教師や友達の詩の朗読を聞いたり、自分で読んだりすることで、詩のイメージをふくらませることができる。
<b>ICT 活用のねらいと効果</b>	<p>○導入として詩の作者が作詞した童謡の映像を視聴することで、これから始まる学習への見通しをもつことができる。</p> <p>・雨に関する歌を知っているかとの問いかけに対して知っている歌の曲名を答えたり、実際に童謡を聞いて作者を身近に感じたりして、学習に対する意欲を高めて臨むことができた。</p> <p>○朗読に合わせて写真と文字を提示することで、詩の内容を理解できる。</p> <p>・どの生徒もモニターに注目しながら朗読を聞くことができた。授業の後半でワークシートを活用し、内容を理解できていることを確認した。</p>
	 
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>Keynote アプリで作成した教材</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>同形式のワークシート</p> </div> </div>
<b>活用ツール</b>	・タブレット ・TV モニター ・ライトニングケーブル+HDMI
<b>アプリ名</b>	・Youtube ・Keynote

<b>学年：高等部1学年 類型Ⅲ 教科名等：自立活動(教育活動全体を通じて行う指導)</b>	
<b>授業の目標</b>	・ICT機器を活用したさまざまな学習場面について、それぞれの内容や活動するうえでのルール等を理解し、自分の気持ちや行動を調整しながら学習することができる。
<b>ICT活用のねらいと効果</b>	<p>①TVモニターの使用目的の違いを理解して参加する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前期生徒会総会では「楽しい動画が始まる」という予想と違い困惑したが、事前に「先生のお話」の絵カードを貼って伝えてから、以後のリモートの行事では状況を理解して参加できた。</li> </ul> <p>②学習の流れを止めずに、友達と一緒に活動することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動画を見ながら運動する活動では、教師からタブレットを取り、好きな動画を選ぼうとした。本人の前で検索して待たせないよう、使用する動画のリンク先を事前にGmailで送信して受信トレイから開くようにした。動画開始までの待ちが減り、本人も見通しがついてきて、学習の流れが良くなった。</li> </ul> <p>③アプリを活用した個別の学習課題に進んで取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭での活用状況から動画視聴以外でタブレットを活用するのは困難と思われたが、「学習アプリ⇒動画視聴」という流れに見通しがつき、落ち着いて取り組めるようになった。</li> </ul>
<b>活用ツール</b>	・タブレット ・TVモニター ・ライトニングケーブル+HDMI ・絵カード
<b>アプリ名</b>	①Google meet ②Gmail, YouTube ③もじるーと, どうぶつまる, NHK きっず



<b>学年：高等部2学年 類型Ⅰ 教科名等：社会「近代日本の始まり(幕末・明治)」</b>	
<b>授業の目標</b>	歴史上の主な出来事を学び、先人の知恵や日本の文化を知ること、生活の変化や自分たちとのつながりを理解する。
<b>ICT活用のねらいと効果</b>	<p>○歴史上の主な出来事を示す写真や動画を提示し、着目すべき部分を分かりやすく示すことで、生活の変化や自分たちとのつながりを視覚的に理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒がTVモニターに映った写真を見て得た気づきを共有することができた。</li> <li>・「支援タイマー」により豆テストの際の残り時間を画面で生徒自身が確認しながら取り組むことができた。</li> </ul>
<b>活用ツール</b>	・タブレット ・TVモニター ・ライトニングケーブル+HDMI ・アプリ「支援タイマー」



学年：高等部2学年 類型Ⅱ

教科名等：国語「短歌に親しもう」

授業の目標

- ・短歌の決まった型を理解することができる。
- ・表現の面白さを味わい、友達の作品の良さを伝え合おうとする。

ICT 活用の  
ねらいと効果

- 短歌を構成する言葉カードを入れ替える場面で、近距離で対面する活動を避けて取り組む。
- ・書画カメラで拡大して提示することで、全員が場札として出ている言葉カードを見ることができ、順番待ちの間に交換したいカードを考えられるため、学習活動が間延びしにくくなった。
- 言葉カードを並び替えて作った短歌を他の生徒にわかりやすく提示する。
- ・言葉カードを並べながら短歌を発表することで、即時に作品を目でも確認できるようになり、発表を聞いている生徒の反応が良くなった。
- ・教師が発表を聞き取って板書する時間を短縮し、生徒が友達の作品を読み味わう時間を長く取ることができるようになった。



活用ツール

- ・書画カメラ ・TV モニター ・HDMI ケーブル

学年：高等部2学年 類型Ⅲ 教科名等：生単「卒業生へ感謝の気持ちを伝えよう～送る会へ向けて～」

授業の目標

- ・卒業生を送る会に向けて、昨年度の様子等を振り返りながら今年度の発表の活動内容について理解することができる。

ICT 活用の  
ねらいと効果

- 昨年度の様子やこれから活動することについて写真等を見ながら確認をすることで、学習する内容を理解し、見通しをもって取り組むことができる。
- ・生徒たちが多くの写真等を踏まえながら説明を受けることで、昨年度の送る会やそれまでに学習したことを振り返り、今年もまた新しい出し物で発表することを理解することができた。学習においては写真等を見ながら、教師と対話的に学習に取り組み、今後の学習の内容について見通しをもつことができた。



活用ツール

- ・TVモニター
- ・パソコン(パワーポイント)

学年： 高等部3年 類型 I

教科名等：理科「発電方法について知ろう」

授業の目標

発電方法の種類や違いについて気付いたり、発電の仕組みについて調べたりすることができる。

ICT 活用の  
ねらいと効果

○視覚的に情報を提示することで、生徒の興味や関心を高めることができる。  
・パワーポイントでイラストや写真等を提示したり、NHK の関連する動画を視聴したりすることで理解を深めることができた。また、タブレットを活用してインターネットで調べ学習に取り組んだことで主体的に学ぶ姿が見られた。



活用ツール

・TV モニター ・PC ・HDMI ケーブル ・タブレット



# ICT 事例集

## B1

調査活動

学年： 小学部3年1組

教科名等：国語「かきぞめをしよう」

授業の目標

- ・アプリの操作をしながら、毛筆学習に興味をもって取り組む。
- ・筆の持ち方に気を付けて、字形に注意して書くことができる。

ICT 活用の  
ねらいと効果

〈授業の概要〉

○アプリ「なぞっておぼえる！ ひらがな・カタカナ なぞり書き」を使用して、書初めの課題である「つくし」の文字をなぞり書きで練習をした。

〈ねらい〉

・音や映像が流れるアプリを使用することで、自分からなぞり書きをしようとしたり、関心をもってひらがなの形に注目したりする。

〈工夫点〉

・アプリの使用の際には、教師と簡単な約束(他のアプリは使用しないなど)をしてから使用した。  
・基本操作は教師主導で行うが、練習したい文字の選択などの iPad 画面のタップは、児童が行う。

〈効果〉

・テレビモニターや iPad には関心が高く、また、操作画面を映すことで画面の変化に気付いて画面に注目するようになった。  
・より書字への関心を高めるために、タッチペンなどを使用することも必要だと感じた。



活用ツール

・iPad ・タッチペン ・TVモニター ・ライトニングケーブル+HDMI

<b>学年：小学部6年3・4組</b> <span style="float: right;"><b>教科名等：国語「読んで書こう」</b></span>	
<b>授業の目標</b>	○平仮名を正しく読み書きすることができる。
<b>ICT 活用のねらいと効果</b>	○アプリ「なぞっておぼえる！ ひらがな・カタカナ」のなぞり書きの活用により、1文字ずつ注目しやすい。  〈ねらい〉 ・アプリを使用することで、平仮名の読み方を覚えたり、書き順を意識しながら、はみ出さないようになぞり書きしようとしたりする。  〈工夫点〉 ・アプリの立ち上げ操作までは教師が行うが、練習したい文字を選んだり、平仮名、片仮名の文字を選んだりするのは児童が行う。  〈効果〉 ・平仮名の書き順が画面上に一画ずつ出てくるため、書き始めが分かり、文字を形として認識するだけでなく、平仮名の書き順を正しく書けるようになった。 ・iPad の関心が高いため、手元に注目しなぞり書きすることができるようになった。
<b>活用ツール</b>	・iPad ・タッチペン

<b>学年：中学部1年</b> <span style="float: right;"><b>教科名等：数学科「いろいろな図形」</b></span>	
<b>授業の目標</b>	角や辺、頂点が分かり、いろいろな多角形の特徴を捉えることができる。
<b>ICT 活用のねらいと効果</b>	○視覚的に角や辺、頂点を理解できる。 ・いろいろな多角形の角や辺、頂点を Keynote のアニメーション効果を用いて、提示することで視覚的に各部分の名称と場所を確認することができた。
<b>活用ツール</b>	・タブレット ・Keynote アプリ ・TV モニター ・ライトニングケーブル+HDMI



学年： 中学部1年重複

教科名等：日常生活の指導「歯磨きをしよう」

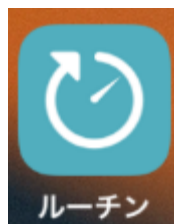
授業の目標

歯磨きをする順番を聞いて一人で進めることができる。

ICT 活用の  
ねらいと効果

○アプリケーションの音声を聞き、その音声に従って一人で歯磨きを進めることができる。

・アプリケーションの音声指示を聞くことで、口腔内のそれぞれの箇所を15秒ずつ順番に一人で歯磨きを進めることができた。



タブレットを見ながら確認する生徒

活用機器

・タブレット

アプリ名

・ルーチン

学年： 中学部2年5組

教科名等：作業学習

授業の目標

○作業の手順が分かり、一定時間作業に集中して取り組むことができる。

ICT 活用の  
ねらいと効果

○残りの作業時間を視覚的に確認することができる。

・集中が途切れた時に、タイマーを見て、教師と一緒に残り時間を確認し、作業を継続することができた。



活用ツール

・支援タイマー(タブレット内アプリ)

# ICT 事例集

## B2

調査活動

学年:高等部3学年 類型II 教科名等:総合的な探究の時間「SDGsについて」

授業の目標

- 実社会・実生活の様々な場面でよりよく生きるために、自ら探究的に学習を進めようとする。
- 将来の課題を見据えた現在の課題を見だし、自ら考え解決しようとする。
- 自分や他者の良さを互いに認め合い生かし合うことで、自己の将来を見据えた課題に、自信や意欲をもって取り組もうとする。

ICT 活用のねらいと効果

- SDGsで取り上げられている社会問題について、具体的な内容を情報収集する。
- ・具体的事例を調べることや写真・動画を見ることで、自分の身の周りで起きていることだと実感することができた。また、自分たちが取り組めそうな取り組みについて考えることができた。



活用機器



・iPad ・TV モニター ・ライトニングケーブル+HDMI

# ICT 事例集


## B3

思考を深める学習

学年:小学部4学年 教科名等:生活単元学習「かいものにいこう」

授業の目標	買い物の際に必要な言葉を知って話したり、金銭を大切に扱いながら、できるだけ自分で買い物をしようとしたりする。
ICT活用のねらいと効果	<p>○ねらい:できるだけ自分でレジでのタッチパネル操作をしようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・TVモニターに示した教師の見本を見て確認しながら、iPadの画面をタッチして次の画面へ進めることができた。</li> <li>・校外学習当日は、自分から自信をもって支払い方法を選ぶ操作などをする姿が見られた。本物のレジでの操作と同じような操作を繰り返し行うことで、子ども達に自信がついた</li> </ul>
	
活用機器	・タブレット端末(iPad)、TVモニター、ライトニングケーブル+HDMI
アプリ名	・Keynote

学年:高等部1学年 類型II 教科名等:保健体育 ティーボール

授業の目標	<p>(1)打つ・捕る・投げるなどの基本的な動作を理解し、行うことができる。</p> <p>(2)自分の動作の良い点や改善点に気づき、工夫したり伝えたりする。</p> <p>(3)ルールを守り、安全に運動をしようとする。</p>
ICT活用のねらいと効果	<p>○生徒が自分の打撃動作の動画とお手本の動画とを比較することで、自分の身体がどのように動いているか気づいたり、改善点や良い点を見つけたりすることをねらった。</p> <p>・生徒自身が身体の動かし方を客観的に捉えることができ、教師の師範や言葉掛けだけでは気づきにくい改善点や良い点について気づくことができた。動画を見た後では、よりポイントを意識しながら主体的に練習に取り組み、基本的なバット操作を行うことができるようになった。</p>
	
活用ツール	<p>(1) カメラで動画を撮る。</p> <p>(2) iMovie アプリでスロー動画にし、Keynote アプリで並べて再生する。</p> <p>(3) Keynote で再生した動画を画面録画し、写真アプリに保存する。</p>



学年：高等部3学年 類型Ⅲ 教科名等：生活単元学習「作ってみよう～風の力・ゴムの力～」

授業の目標

- ・ゴムを短く伸ばした時と長く伸ばした時とで、走る距離や速さにどのような違いがあるかが分かる。
- ・風受けの大きさに走る距離や速さにどのような違いがあるかが分かる。

ICT 活用の  
ねらいと効果

- 手元の端末で映像を確認することで、気になるところをそれぞれが確認することができる。
- 映像として残すことで、繰り返し確認することができるため、理解が深まることが期待できる。
- ・他の生徒が作ったものと自身のものの違いに気付き、風受けの大きさを変えたり、ゴムの長さや本数を変えたりする姿が見られた。
- ・自ら撮影した動画を用いて様子を確認するという流れの中で、端末の効果的な活用について知ることができた。
- ・映像を確認し、どちらが長く走ったか、どちらが早かったかを正確に答えることができた。



活用ツール

・タブレット

アプリ名

① 写真 ② iMovie

# ICT 事例集

## C1

発表や話し合い

学年：小学部5年3・4組

教科名等：図工「オリジナルバッグを作ろう」

授業の目標

イラストを選び、大きさや位置を決めてデザインを考えることができる。

ICT 活用の  
ねらいと効果

- Google で音声検索をして好きなイラストを選ぶことができる。
- ・音声検索では、検索されるようにはっきり話すようになった。また、検索した結果がすぐに表示され、多くの物から自分好みの物を選べるので、教師が予測し、提示するよりも選択肢が広がる。
- Keynote を使ってイラストのサイズや配置を決めたり、絵を描いたりすることができる。
- ・タッチパネル操作で簡単にイラストを動かし、大きさを変えられることで、絵を描くことが難しい児童でも、自分がイメージしたものを表現することができた。
- 本時の成果を共有し、振り返ることができる。
- ・自分が作ったデザイン案が TV に映ることで達成感を得ることができた。
- ・友達が作成したものを見て、様々なアイデアを得たり、称賛したりすることにつながった。



活用ツール

- ・タブレット
- ・TV モニター
- ・ライトニングケーブル+HDMI
- ・Google
- ・Keynote